



「日本人」と「虫の声」

秋の終わりがなくのように、師走を迎えても暖かい日が続いています。それでも11月に楽しそうに鳴いていた虫たちの声は小さくなり秋の終わりを感ぜさせてくれています。3年生は三者相談が始まり、いよいよめざすものがはっきりとして授業時間の「目」の輝きも増しているように感じます。



さて、突然ですがみなさんは日常生活の中で聞こえてくる「音」について気にしたことはありますか？おもしろい記事を見つけました。

「虫の音（むしのね）や雨音（あまおと）などを日本人は左脳で聴き、西洋人は右脳で聴く。」ということでしょうか？

基本「人」は世界共通で、音楽、機械音、雑音は右脳で聞き、言語（言葉）は左脳で聞く。しかし、母音、泣き・笑い・嘆き、虫や動物の鳴き声、波・風・雨の音や小川のせせらぎ、邦楽器音などを日本人は言語（言葉）と同じ左脳で聴いている、西洋人は楽器の音や雑音と同じく右脳で聴いているということが研究で分かったというのです。

「虫も人と同じ生きとし生けるものとして思いを持っている」という日本人の自然観・文化が脳の働きも変えたということでしょうか。

ちなみに、西洋人でも幼少時期に日本語を母語として育つと、日本人と同じように虫の声を左脳で聴くようになるのだそうです。

虫の音を「言葉」と同じように聴いている日本人ってちょっとステキだなあと思いますよね。でも、虫の音が「雑音」と同じように聞こえるえている西洋の人も、それは感性の問題ではなく脳の働きの違いだと理解することも大事です。

同じ日本人でもその日の体調で「音」の聞こえ方も変わることがあります。いつも平気な「音」が、体調を崩しているときにはとても辛く「騒音」に感じられることもあります。美しい歌声や楽しいドラムのリズムも、聴く人によって、聴く人の状態によって受け取りが違ってくることもあるので覚えておきましょう。だから、たくさんの人が集まる場所・生活する場所は、基本「静かに」しましょう。

国際社会に生きるみなさんは、感じ方や受け取り方が違う文化で過ごしてきた人たちと一緒に仕事をし、共に生活することもあるかもしれません。「虫の声」は一例です。お互いの文化を尊重し、自分との違いを受け入れていくことが、これからの時代には不可欠です。今週は「人権週間」。まずは、身近にいるお互いを尊重にしていますか？お互いの違いも大事にできているのでしょうか？（文責：上野真紀子）

1年「食に関する指導」 11/21

伊集院給食センターの西村先生を講師にお招きし、1年生で「食に関する指導」を実施しました。学習の中で、栄養価や栄養素を考えながらファストフードのメニューを決める演習を行いました。好みだけではなくバランスよく食事することの大切さや、給食の献立がいかに考えられたものになっているのかを理解することができたようです。



3年社会科ゲスト・ティーチャー授業 11/21

3年生の社会科では民主政治について学習しているところです。鹿児島市で議員をされている野口英一郎さんの御協力をいただき、議員の仕事や地方自治のことなどについて学習する機会をいただきました。生徒からの質問に丁寧にお答えいただき、民主政治の理解を深めることができました。また、主体的に行動する大切さも学ぶことができたようです。



花壇の苗植え 11/22

卒業式から入学式の時期にかけて、花壇を彩る花苗の定植を行いました。自主作業で3年生を中心に、学校主事の焼山先生が育てたノースポールやツルコザクラなどを植えていきました。他にもリビングストーンデージーも植えており、パンジーなどは鉢植えもしています。生徒に皆さんにはこれからも花の成長を見守ってほしいと思います。



合同給食 11/20

全生徒と全職員での合同給食を実施しました。普段は各教室で行っている給食ですが、この日は全員が美術室に集まり、異学年で構成された6班に分かれて会食しました。普段とは違う雰囲気の中で、各班いろいろな会話をしながら食事を楽しむことができました。また、他学年との食事量や食べる速さの違いについても気付く機会となり、食への関心を高めることができましたようです。



ありがとうございます

全国納税貯蓄組合連合会

継続した「税についての作文」の取組が認められ、昨年の日置地区租税教育推進協議会学校賞に引き続き、感謝状をいただきました。

感謝状授与



友愛タオル贈呈

日置市高齢者クラブ連合会伊集院支部様からたくさんのタオルをいただきました。美化活動等で活用させていただきます。



おめでとうございます

平成30年度日置市

児童生徒読書感想文コンクール

特選 3年 さん
 選選 3年 さん
 2年 さん
 ※ さんの作品は、文集「ともしび」に掲載されます。

第32回鹿児島県中学校技術・家庭科作品展

最優秀賞 2年 さん
 入選 2年 さん
 さん
 さん
 さん
 ※ さんの作品は、全国大会に出展されます。

期末テスト 11/27~29

2学期に学習した内容の定着が図られているか確認する期末テストが27日から3日間実施されました。生徒の皆さんはテスト対策の勉強がしっかりとできたでしょうか。職員室では、皆さんの勉強のようすを心配する先生たちの声も聞かれました。

定期テストには2つの側面があります。1つは、冒頭に述べたように学習の定着の度合いを確かめること。皆さんはもちろんのこと、先生たちも自らの指導法を振り返る機会になっています。もう1つは、皆さんの学習の契機にすること。何となくできたことや分からなかったことはそのままにしがちです。範囲が決められている定期テストでは、それらを把握し、再度学習し直すきっかけになります。もちろん、要点を整理したり練習問題を解いたりして、より理解を深めることもできます。また、学習のしかたを工夫しながら自分に合った効率的な学習方法を見つける機会にもなります。一夜漬けなど短期記憶に頼った勉強でテストの結果が良くなることもありますが、将来的にはしっかりと取り組んだ人との間に点数では表せない大きな差が生じます。テスト訂正と併せてテスト対策の勉強がどう

であったのかも振り返ってみましょう。その際、「土橋ガイダンスブック（学習の手引き）」を参考にしてみるのも良い方法です。学年末テストでの皆さんのさらなる健闘を期待しています。

★ 「土橋ガイダンスブック（学習の手引き）」からテストの勉強法の一部を抜粋

期間	2週間前	1週間前	テスト直前
目標	要点整理	実力養成	要点暗記
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> 要点をノートに整理する。 疑問点を解決する。（友人や教科担任へ質問する。） 不得意教科を補強する。 練習問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト時間割に沿って1日に2・3教科を復習する。 要点を押さえ、応用問題に取り組む。 不得意教科に重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> 整理ノートを暗記する。 難しい点、できなかった点を再度やってみる。 成果をもとに、目標点数を出してみる。